

新潟大学におけるカリキュラムの見直し

歯学部 山田好秋

理念：歯学部では“科学的トレーニングを身につけた歯科医師や歯学研究者を育成すること”を基本理念として教育を進め、目的を達成するためにカリキュラムの見直しを行ってきた。

カリキュラムの見直し：歯学部では平成6年2月に、歯学部教育検討委員会の検討結果を受けて6年一貫教育に移行した。そのため教養を1年で経過して専門にあがってくる学生（平成7年度入学）の専門教育のためのカリキュラム編成を行う作業委員会、カリキュラム編成委員会が作られた。平成7、8、9年度は、教養を2年間過ごした学生と、教養を1年で経過して専門にあがった学生の、2学年を同時に教育する、移行期の専門教育カリキュラムを編成した。基礎科目では2学年合同授業を、臨床科目では同時期に2学年別々の授業を行い、講義・実習の実施が繁雑を極めた。移行期カリキュラムも本年度で終了し、明年平成10年度には2、3、4年の授業が全て新カリキュラムに移行する。

新カリキュラムでは、1年を2期に分け、さらに1期を2つに分け、1年を4分割して講義単位（1ユニット）とし、それぞれの講座の授業時間数を決めた。1ユニットは週1回90分授業8回で構成され、通年週1回の講義では4ユニットになる。学部の開設以来、授業時間は新講座の開設ごとに変動して複雑になっていたのを、ユニット単位で組むことにより、時間割表が単純になった。

4年間で行っていた専門教育を、5年間で行うことになり、過密になっていた歯学部専門教育をゆったりと組むことができるようになった。1年分の余裕は、不十分だった新設講座の授業時間の充足、臨床実習の充実にあてたほか、週1回午前を2、3、4年の各学年に学年別特別枠、週1回午後を全学年に全学年共通特別授業枠として配置した。この学年別特別授業枠で、2、3年次にネイティブスピーカーによる英語の選択

制の授業を組んだ。この他、専門分野とは直接関係しない科目として情報処理を2年生の特別授業枠に開講し、附属図書館旭町分館のマルチメディア設備を利用してコンピュータの使い方や図書館の利用法などを体験させた。平成9年度には高齢社会に向けて在宅医療や介護への対応が求められていることを受けて、広く医療の現場で活躍している人たちにお話し、学際的・実践的な講義を組んでいる。さらに、この授業枠にボランティアセンターからも講師をお願いし、学生のボランティアへの認識を高める配慮も加えた。このように、特別授業枠は従来のコアカリキュラム的なもの、今後新設される授業科目、ボランティアや研究など特色ある科目のために使う予定である。新カリキュラムへの移行が完了した際の具体的な授業科目については、カリキュラム編成委員会で検討を続けている。

新カリキュラムの作成は、移行期のカリキュラムを含めて複雑を極め、それぞれの授業科目を何年生に設定するかでは、それぞれの講座の思惑がぶつかりあい、調整に追われた。授業時間割では実習室の割振りなどもからんでさらに複雑になり、移行期カリキュラム、新カリキュラムとも、それぞれ10以上の委員会案が作成された。

今後のカリキュラム改変の方向：大学を取り巻く状況は厳しくなっており、大学審議会や21世紀医学・医療懇談会の答申などを参考に、今後のカリキュラム編成時に考慮すべき点を列挙した。

1. 編入等、入試の多様化に伴う改変
2. 卒後研修制度（2年の卒後研修の義務化）との整合性
3. 学部改革に関連した改変
4. 介護等、社会の要請に応えられる人材育成に向けた改変